

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

集落ぐるみで農産物の加工・販売

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	香川県 ^{なかたどぐん} 仲多度郡 ^{まんのう} 町の ^{ちよう} 町 ^{おおくち} 大口			
協定面積 19.8ha	田 (67%)	畑 (33%)	草地	採草放牧地
	水稲	タケノコ		
交付金額 353万円	個人配分			95%
	共同取組活動 (5%)	会議費 (役員報酬) 次年度積立金		3%
				2%
協定参加者	農業者 38人、水利組合 (1組合)			

2. 取組に至る経緯

当集落は、旧仲南町十郷地区を流れる財田川の支流、大口川上流域に位置し、水稲及びタケノコの栽培に取り組んでいる。水田のほ場整備率は8割強と高いが、谷筋ごとに農地があるため効率的な管理が行いにくく、イノシシによる農作物被害も多い状況であった。

また、集落周辺の帆の山集落や新目集落では、集落営農活動により効率的な営農を展開していたが、当集落は組織が未整備であったため、農作業従事者の高齢化等により農地の維持管理が困難となり、耕作放棄地の増加等が懸念されていた。このことから集落内での話し合いにより、平成12年度の本制度スタートと同時に集落営農活動に取り組むこととなった。

3. 取組の内容

平成17年度からの新対策移行後は、従来の活動をより一層ステップアップさせるため、地場産農産物であるタケノコによる高付加価値型農業に集団で取り組むとともに、地域の子供たちに農作業を通じて、農業に対する関心を促す活動に取り組んでいる。

特にタケノコでは、生鮮として出荷出来ないものを穂先タケノコの加工品として販売を始め、現在は目標を上回る面積で取り組まれている。



穂先タケノコの加工品
(商品名：しゃっきり竹の子)



子供たちとの竹林管理
(タケノコ掘り体験の様子)

[集落の将来像]

若年層の核となる農業者（兼業も含む）を中心に営農体系（集落営農組織）の再構築を図り、集落全体で共同で取組み、生産活動の継続・景観形成の維持管理に努める。

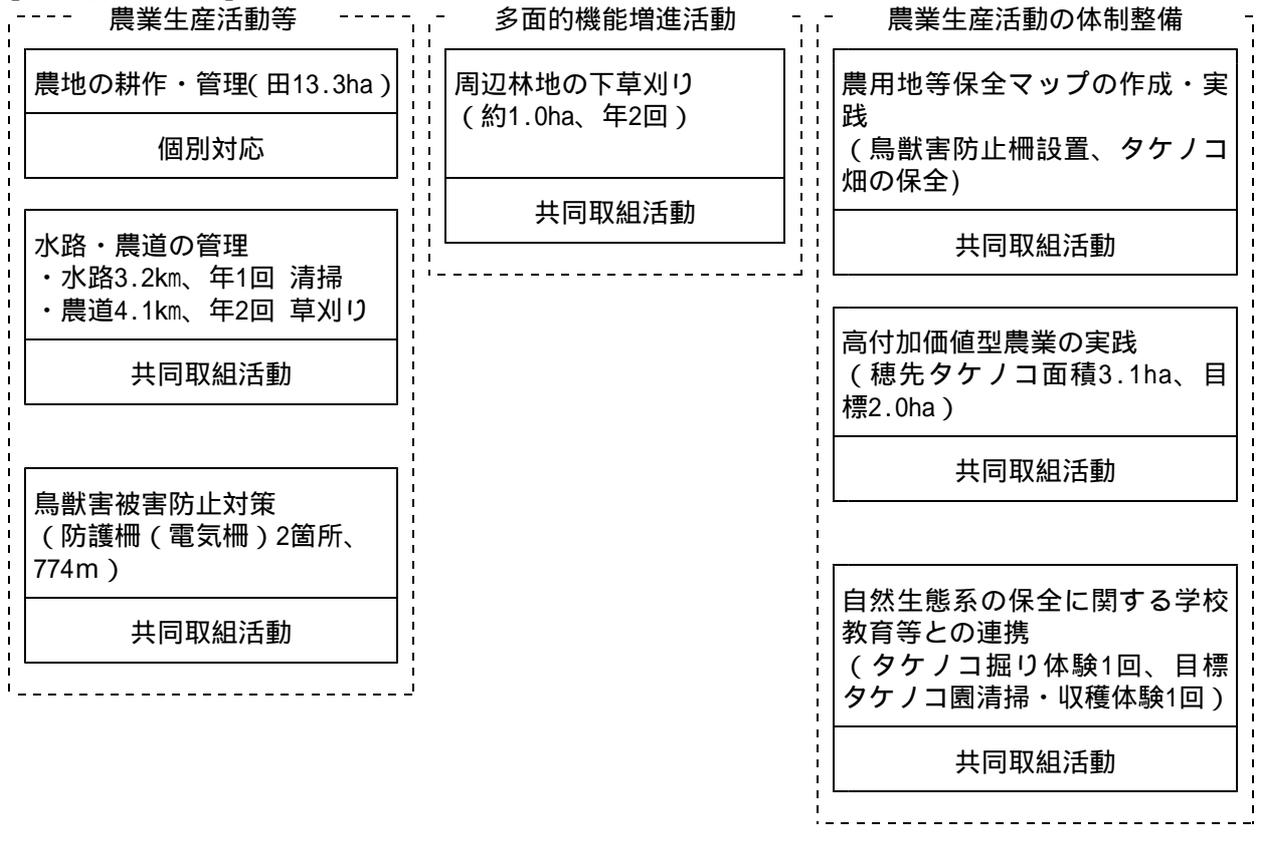
不整形な農地については、ほ場整備事業により区画整理を行い、大型機械の導入による農作業の省力化と生産性の向上を目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

適切な水路、農道の維持管理に努める。 集落内での見回り体制を整える。 集落協定者が一体となり、共同作業を行うよう努める。 イノシシ防護柵等により農地を守る。

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

これまで、耕作放棄地の発生を未然に防止し、集落コミュニティの活性化に成果をあげてきたところであるが、農業従事者の高齢化には歯止めがかかっていない。将来的には若年層の核となる農業者（兼業も含む）を中心に営農体系の再構築を図るとともに、大型機械の導入による農作業の省力化と生産性の向上を目指す必要がある。

また、子供たちとの竹林管理（清掃・収穫等）を通じて、“農地は管理しなければ荒廃し、荒廃すればイノシシなどの「すみか」が増え、農業、地域での生活に悪影響を与えること”を教え、地域を愛し、後継者となる人材が1人でも多く育成できることを期待している。

[平成20年度までの主な成果]

穂先タケノコ加工品の取組み拡大(当初0名、0t、0円、H19実績7名、3.6t、38万円)